クロマツメテングスフシ 発生

旧称　芽状てんぐ巣病（多芽病）（がじょうてんぐすびょう・たがびょう）

中　川　清太郎

2009年7月7日「佐渡両津港に植栽されているクロマツの枝に、見たことの無い変なものがくっついているから、何なのか一度見てほしい」と第一発見者の畠山美緒氏（両津自然探訪会）より質問依頼があり、早速現地を案内して頂いてビックリ。地上2～4mの枝に茶色の新芽らしい物が薬玉状に丸く固まっている。一本の木に大小何個も枝先に付いていたり、ぶら下がっていたりで初めての光景である。付近の木にも同様のものが見られる。『原色庭木・花木の病害虫』（上住泰・西村十郎著、1992農村漁村文化協会）には「芽状てんぐ巣病（多芽病）」。生育が不良なアカマツやクロマツに発生する。病原についてはいまだ明らかになっていない…防除法は病巣の摘除、焼却処分し…」との記載はあるものの納得がいかない。最近クヌギエダイガフシ、エゴノネコアシ、マタタビミフクレフシなどの様な虫えい（虫こぶ）ではないかと『日本原色虫えい図鑑』（湯川淳一・枡田長編著1996全国農村教育委員会）を開き、「クロマツメテングスフシ」と判明。

それによると、「フシダニの一種 *Trisetacus* sp. によって、クロマツの前年枝の芽に形成される虫えいで、長さ3～8cm、幅2～3cm、直径2～10cmほどのてんぐ巣状となる。元来、この虫えいはクロマツの芽状てんぐ巣病という名称で、樹病として取り扱われていたものである。古くは“松の十カヘリノ花”と呼ばれて、珍重されていたという。本種の生態については不明。分布　本州、四国、九州。　関連寄主植物　リュウキュウマツ（マツ科）」などのように記載されている。

被害状況

場所は佐渡市両津湊、両津湾と加茂湖の中間地点、両津湾より200mにある。北西向きに通る幅15mの道路に面し、三列ほどのこのクロマツ植栽林を隔て駐車場とヘリポートがある。この区画の植栽の長さは100mである。植栽クロマツ81本のうち、道路沿いの31本全てがかなり衰弱しており、18本が虫えいを付けている。最高で28個の虫えいが付いている木が2本あり、以下16、13、6、5、3、2、1個で計139個。西日の当たる側が58%、その内側が15%、反対側は0%の発生である。28個付いているクロマツの樹高は5.4m、胸高幹周48cm。被害木での大きなものは樹高7.3m、胸高幹周63cm。虫えいの直径は3cmから12cmである。1芽の長さが目視で4cmほどの小球もある。植栽部は丸い礫混じりの砂壌土でPH4.9と強い酸性を示した。普段から過乾燥気味で根本のクルメツツジやドウダンツツジなどの生育もアスファルトの熱風のためか良くない。付近を捜したところ別の区画で、100mほど北西側に6個付いたクロマツ1本が見つかった。渡辺洋子氏はこれより海岸よりの朝日の当たる側に一本見ているとのこと。徐々に拡散している様に思えてならない。折りしも7月7日は七夕である。素直に喜べない不気味な薬玉の贈り物である。　2009. 8.13

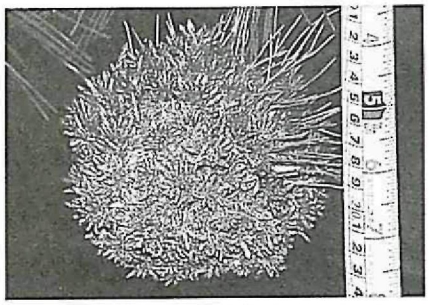


写真1　直径12cmの大きさの虫えい
（2009　7/13）

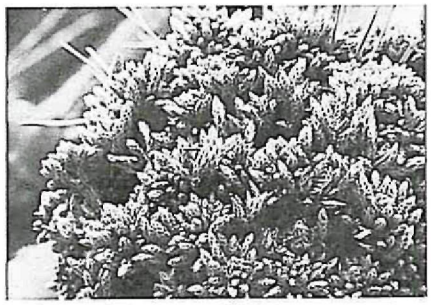


写真2　虫えいの一部拡大
（2009　7/7）

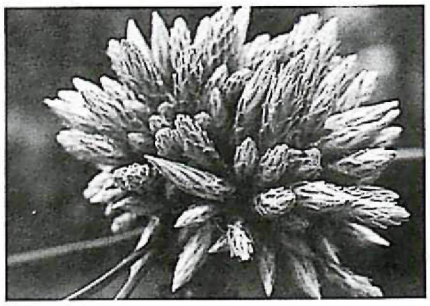


写真3　小球状の虫えい　（2009　7/7）

クロマツメテングスフシ
佐渡両津港ヘリポート西隣

県内で「クロマツメテングスフシ」の発生にお気づきの方は、中川氏あるいは事務局に御連絡いただければ幸いです。

[新　刊　紹　介]

「栄村の自然　植物と風景（写真集）」

同書に掲載の編集後記を下記に収録しましたので、ご参照下さい。同書の購入希望者は、栄村教育委員会か、新潟県植物保護協会事務局に申し込んで下さい。一部　1500円で頒布しています。

[編　集　後　記]（写真集）

栄村の教育委員会から植物の調査依頼を受け、平成13年から平成20年にわたり各地を精査する機会が与えられました。調査の前半には、主に個々の植物の写真を撮影してきましたが、最近2・3年の間、個々の植物写真の他に植物と風景の写真を撮るようになり、その点数も多数集まりました。それらの中から100点を選び出して一冊にまとめておきたいと思い、刊行することにしました。

しかしながら、一枚の写真の中に、植物の生きている姿とその背景を収録することは、簡単ではないと強く感じました。植物も多様であり、環境も瞬時にして様々に変わります。その瞬間の美しい自然の姿を映像としてとらえるには、長い年月が必要です。どの種についても満足のできる映像が収録できたとは言えません。何枚が撮影した中から一枚を選び出していますが、一枚の写真に収めてみると反省点が残ります。

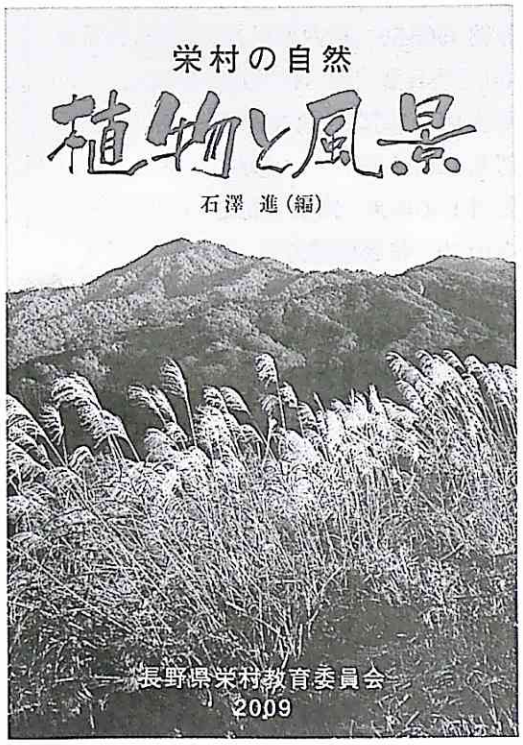
写真の配列に統一性がなく、写真集ならば季節ごとに並べる方が良い、との指摘がありました。編者としては、植物を強調したい気持ちがあり、一般の方々にはなじみの少ない植物の分類体系順に配列しました。類似した植物の仲間が、どのような環境に生活しているか、また同じ植物でも季節より、どのように変わるか、並べて見る方が、植物の生き様がわかるのでは、と配慮したつもりです。いずれにしても、身の回りの植物の生き様の一端に目を向けてほしい、雑草と一まとめで扱われやすい植物も自然界の一員として認識してほしい、との願いをこめたつもりです。

「植物と風景」を織り込む写真の対象には、目立たない小さい植物が除外されて、大型の植物、あるいは樹木が多くなりました。できるだけ小さい植物にも登場するように撮影の際に努力しましたが、引き伸ばして大きな写真にすると、どの植物が主体であるか、分りにくい写真になり、収録できないものもありました。

栄村には、まだまだ多種多様な植物が生育しています。そのような多くの植物に焦点をしぼって撮影を続けて続編が出版できればと思っています。多くの方々のご意見が頂ければ幸いです。

最後に、栄村の自然の豊かさを示す植物調査の必要性を認めて頂いた前高橋彦芳村長をはじめ、宮川幹雄教育長ならびに教育委員会の皆様に謝意を表します。また、植物調査を引き受けている新潟巧測会社の佐藤巧社長と調査に同行している朱雁氏のご理解とご協力により、加えてコーエイ印刷の横木正幸社長のご尽力により出版することができました。以上の関係者に厚く御礼申し上げます。

（編者）



栄村の自然
植物と風景

発行日　平成21年1月15日
編　集　石澤　進
新津植物資料室（積雪地域植物研究所）
発行所　栄村教育委員会
長野県下水内群栄村大字北信3433
印　刷　コーエイ印刷株式会社
新潟県新潟市中央区弁天橋通1-31-30